自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社 二千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-8		
自己評価作成日	平成23年12月10日	評価結果市町村受理日	平成24年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600053&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○ありがとうございますと言われるよりも、ありがとうございますと云える介護を目指します。</p> <p>1. 入居者の尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者がどんな状態にあらうとも、人生の先輩として、尊厳を忘れず接するように努めています。 ・どんな場合でも、入居者の尊厳が傷つかないよう配慮します。 <p>2. 入居者が生きがいを感ぜられる生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々にあった役割や、本人の希望を活かした生活に努めています。 ・穏やかで張りのある生活ができるよう、外出・外食、施設内でのイベントなど、積極的に実施するよう努めています。 ・家庭的な雰囲気作りにも努め、会話のある生活を心がけています。 <p>3. ご家族との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低月1回は面会をして頂くようにしています。 ・ご家族の面会時には、生活状況・健康状態・変化等を説明し、ご家族の意見・要望をお聞き取り入れています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>温かく賑やかな居間では、利用者と職員が家庭的な雰囲気の中、ゆったりとした暮らしが継続されています。管理者及び職員が、利用者一人ひとりに対し、一生懸命に対応している努力を垣間見ることができます。また、1～2階のユニットは常に開放されており、利用者の交流や、職員が1～2階の利用者全てへの気配りなど、支援ができる体制ができています。就労間もない職員に対しても、早期に職場になれるよう、ベテラン職員のサポートが良くできています。ターミナルケアも3例を数えるなど、職員の意識変化もスキルの向上として培われています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作成し、リビングに掲示して全職員が共有に努め、実践に取り組む努力をしている。	運営理念が、職員にとって、日々のケアの実践に欠かせないものとして、認識するように努めています。これまでの理念は、文面的に若干長いので、職員はもとより、家族にとっても理解しやすい簡潔な理念作りが予定されています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校と交流を持ち、学習発表会見学に学校を訪れたり、福祉の授業でホームに小学生が来たりと交流している。	近くの小学校とは、ホームへの訪問や学習発表会の見学など、相互交流が盛んに行われていますが、町内会を始めとする近隣の住民の方々との交流が少ない状況にあります。	利用者が、地域に溶け込んで安心した暮らしを継続するため、町内会を始めとする地域の力を借りなければなりません。町内会への加入により、地域の行事参加やホームに対する協力要請など、これまで以上の積極的な取り組みを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のグループホームと地域へ発信していこうとの取り組みを始めた。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日常の活動や、評価への取り組みを報告し、会議で出た話し合いの記録をミーティングで発表し検討している。	定期的開催されていますが、地域住民の方々の参加が少なく、一方的な報告に終わる傾向にあり、メンバーからの意見なども少ない状況が続いています。また、会議の議事録の内容も不十分と考えます。	地域の住民の方々、民生委員、地域包括支援センター職員など、メンバーの拡大による会議の活性化が望まれます。会議の議事録は、報告の内容、質疑応答の内容などの充実が望まれます。近々に議事録を家族のもとへ送付する予定も含め、今後の取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や避難訓練に参加してもらい、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当窓口とは、運営推進会議への出席や避難訓練参加など、徐々に連携が図れつつあります。今後は、外部評価で得られた改善目標を示しながら、サービスの質の向上を図ることとしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルに沿って拘束の無いケアに努めている。	ホーム全体で、身体拘束のないケアに向けた支援が行われています。夜間以外は、玄関やユニットは1～2階とも施錠はなく、自由な行き来が可能となっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、資料を基に理解を深め、虐待の防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等、全員が学ぶ機会を持っているとはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時や契約時に詳しく説明し、話し合い理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。入居者様とも意見の聴取に努めている。また、ご家族に運営推進会議に参加していただいている。	利用者に運営推進会議に出席して頂き、報告などを受けていますが、家族の出席が少なく、意見や要望については、専ら訪問時か電話で聴取し、運営に反映しようと努めています。また、「ご意見箱」が、玄関に設置されていますが、十分に活用されていません。	家族からの意見や要望は、ホーム運営にとって、大切なものの再認識が必要と考えます。「利用者が豊かな暮らしができるホーム」を作るため、家族参加を推し進める取り組みが望まれます。「ご意見箱」を設置した理由を、毎月の会報や訪問時を利用するなど、積極的に啓発を行う取り組みも期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を聞いたり、常時意見や提案を言い易い雰囲気作りに努め、管理者と職員の個人面談も実施している。	管理者は、職員との風通しの良い雰囲気作りの中から、会話を通して、運営に反映するように努めています。冬季間の玄関先の通路の凍結対策や、ガラスの結露防止、雪や雨にさらされるゴミ箱の配置換えなど、意見や提案により改善されるなど、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じて昇給を検討し、介護職員処遇改善交付金を活用している。福利厚生を利用し職員間の交流を図り、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会の確保に努めている。また、個々の資格取得の機会も、確保できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと交流しネットワーク作りや、お互いの質の向上に努めている。また、相互訪問や一緒に勉強会を行う等の取り組みを始めたところである。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に、本人に施設を見学していただき、不安や心配を取り除くよう努めている。また、来訪できない方にはこちらから出向き面談する。入居開始時には意見や希望を聞き信頼を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、ご家族にも見学していただき、話し合いを重ね不安の解消に努める。入居以降も心配事が無いかなどの、話をする機会を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人の情報を元に、一人ひとりに沿った対応に努めている。また、ご家族の状況により、個別に必要なとする支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとりの状況に合わせ、できるだけ職員と一緒に行動するようにしている。家事・料理・季節の飾りを作るなど、共に過ごせる時間を作るようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話をしたり、来訪していただいたり、お互いに安心できる関係が築けるよう心がけ、入居者様の心身状況・変化についてご家族様と話し合うよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られたときは、お茶を出しゆっくりとお話ができる雰囲気作りをしている。	ホームに何回も来て頂いているメイクボランティアの方々の中には、馴染みの人もいて、和やかに会話も弾んでいます。職員は、馴染みの関係が途切れないよう配慮しています。また、ドライブでは、以前に住んでいた町並みを通り、懐かしい話で賑わっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格や相性を踏まえて、席を決めたり、少人数でも何かを行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までどおり、退去者の中に継続的な関わりを必要とする方はいないが、今後も相談に応ずる旨を伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの居室、生活スタイル、及び、思いや希望にこたえるための手段として、入居者様担当制度を設け、より個別のニーズに合った対応を心がけている。	利用者への支援体制を強化するため、利用者の担当を決め、きめ細やかな支援をしています。職員は、利用者の現在の様子や生活歴などを熟知しながら、思いや意向の把握と支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、面会に来られた方たちからも、想い出や嗜好を聞き、全職員が把握できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に気を配り、個別に記録し、毎朝・夕の申し送りで全職員に伝わるようにしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態が変化した時や気づいたことを、家族や関係者と話し合い、より良い介護計画となるよう努めている。	職員の日々の記録に基づき、カンファレンスが行われ、利用者の介護に適した計画が作られています。利用者の状況変化にも素早く対応しながら、介護計画の見直しも行われています。現在使用中のアセスメント記録について、表題を含め改善が予定されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の記録に記載し、個人のノートに病状変化等を詳しく記載して、情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が行けない病院受診や、緊急時の受診は、相談しながら行うようにしている。買い物も相談の上、家族に代わり行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力を得て避難訓練を行っている。運営推進会議には民生委員が参加している。また、メイクボランティアにも協力してもらっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った病院受診ができるよう努めている。また、訪問看護と相談しながらホームのかかりつけ医が訪問診療で健康管理を実施している。希望に応じ歯科・皮膚科の訪問診療も行っている。	かかりつけ医への受診は、家族と相談し、継続支援が行われています。ホームの協力医や訪問看護師と連携を図り、訪問診療や健康管理が行われ、家族からも喜ばれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないが、訪問看護ステーションと契約し、個別の訪問看護以外に週1回の定期訪問で、全員の健康管理を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、家族の希望や了解を得た上で、医師に病状説明や治療計画を聞き、相談員とよく相談の上、早期退院できるよう援助している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り介護の方針について説明を行い、かかりつけ医・訪問看護・ホームが、本人・ご家族の希望を聞きながら、状況に合わせて話し合い、改善しながら取り組んでいくよう努めている。	重度化や終末期に向けた介護の方針は、家族にも説明されています。過去、ホームで3例の看取りも体験しており、医師や家族と職員の連携は、これまでに以上に強固なものとなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルは作成されているが、全職員が速やかに対応できるかは、不安が残る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時用の飲食品類、備品類等緊急持ち出し袋を用意し、避難時に持ち出せるよう整備しました。	年2回夜間想定を含めた避難訓練が実施されています。消防署や近隣の住民の方々の協力を頂き、災害に対する備蓄も始まっています。これからは火災に加え、地震などを想定した訓練も検討しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、それぞれに合った声掛けや対応を心がけ、日常のケアサービスの際に、入居者様の誇りやプライバシーをそこなわないように配慮しています。また、スタッフ個々の対応の改善に努めています。	利用者の人格を尊重し、言葉掛けに気を配り支援しています。職員は、入浴やトイレ誘導には、特にプライバシーへの配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力を把握し、個々のできる中で選ぶ機会を作り、それぞれが納得できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様優先を心がけ、一人ひとりのペースで生活できるよう、可能な限り支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容や、メイクボランティアを利用し、個々の希望に合うように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事形態にしている。食事準備や後片付け、食事を共にし、個々に合わせた支援をしています。	献立は職員が交代で担当しており、多彩な献立により、利用者の喜びの食事風景を見ることが出来ます。下拵えや食器洗いなど、出来ることは利用者自ら手伝っています。職員は利用者との間に入り、一緒に楽しい雰囲気作りをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量に配慮し、季節のものを取り入れた献立作りに努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・義歯洗浄の声かけをし、できていないところの介助を行っています。口腔状態を把握し、必要に応じ歯科受診を行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の記録を参考に、排泄パターンを把握し、声かけ・誘導・交換の介助をしています。パターンを把握しスタッフ間で共有することにより、紙パンツの使用やトイレ外排泄の減少などの効果が表れています。	トイレでの自立した排泄を促すため、利用者一人ひとりのパターン把握が、細やかに行われています。可能な限りオムツに頼らない方法で、トイレでの排泄支援が行われています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を確認し、水分補給・食物繊維の摂取等の工夫をしています。薬の使用時は、医師と連携を取り合い調整しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を見ながら、一人ひとりの希望に合うように努めています。週2回は入浴できるよう、毎日午後から実施しています。	体調を含め一人ひとりの希望を十分に加味しながら、入浴支援が行われています。出来るだけ週2回以上の入浴を促し、支援しています。以前には夜間入浴の希望もありましたが、現在は希望がありません。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない場合は、話を聞いたり、安心できるように配慮しています。昼夜の区別が付きにくい入居者には、昼に運動や散歩をする等、リズムが整うように支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストが明示されており、全職員が把握できるようになっている。誤薬防止のため、内服時に本人とスタッフで、名前や日付を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自主性を尊重し、できる範囲で家事を一緒にやり、継続するよう努めている。また、楽しみごとも、入居者様同士が楽しく誘い合えるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望は、個別に対応できるよう努めている。全員での外出が難しくなっているが、散歩やドライブ等、1・2階合同での外出ができるように支援している。	ホームの向かいに広がる大きな公園は、利用者にとって、温暖な日差しを受けての散歩には、格好な場所となっています。利用者の閉じこもりを防止するため、買い物を兼ねて近くのコンビニやスーパーにも出かけます。また、ドライブによる少し遠出の外出は、利用者にとって大きな楽しみとなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物には、職員が付き添い、本人に支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、その都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを置き、テレビを楽しむことができる。生活音を感じることができ、季節ごとの飾りつけも入居者様と一緒にしています。	暖かい日差しがたっぷりと入る居間では、利用者が、思い思いのソファでゆったりとした時を過ごしています。壁には、ドライブでの写真や小学校の学童との交流写真、お便りなどがぎっしりと貼られ、賑やかな雰囲気作りが行われています。これからの冬季間は、ホーム内が乾燥する季節のため、湿度の管理には特に配慮し、快適な共用空間作りに努めることとしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居場所を確保し、自由に会話やお昼寝したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やなじみの家具など、自由に持ち込んでいただき、心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、利用者の馴染みの家具、調度品が持ち込まれ、安心した暮らしの空間となっています。仏壇やソファ、壁には家族の写真や、自ら作った作品などが貼られています。日中の日差しが少ない居室では、夕刻になると室内温度が低くなる傾向にあります。	利用者は、居間で過ごす時間は長いようですが、夕食後には居室に戻ります。そのため、居室の室温を事前に把握しながら、早めの対応により、夜間の穏やかで暖かな雰囲気の暮らしが継続されるよう、取り組みを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすいように、名前や目印を貼るなどの工夫をし、見守り、危険が無いように努めている。		